

「団結する農民 - 甲斐国天保騒動 - 」

活用資料・展開例に対応する、学習指導要領小学校社会第6学年の目標と内容

目標

- 4) 社会的事象を具体的に調査し、地図や年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるようにする。

内容

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

オ 江戸幕府の始まり、大名行列、鎖国、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、身分制度が確立し武士による政治が安定したことや町人の文化が栄え新しい学問が起こったことがわかること。

指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い

- (3) 博物館や郷土資料館等の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財等の観察や調査を行うようにすること。

県史アンケート結果と対応する活用資料の項目

- | | |
|------------|-------------------|
| ・ 水害・治水 | ・ 地域の発展に尽くした先人の業績 |
| ・ 地域に残る文化財 | ・ 甲府空襲 |
| ・ 戦時下の暮らし | ・ 戦国武田三代 |
| ・ 甲斐源氏 | ・ 身延山と日蓮 |
| ・ 幕末・維新の山梨 | ・ 天保郡内騒動 |
| ・ 富士川舟運 | ・ 甲府城・城下町 |

展開例

対象となる時間 学習指導要領 内容(1)ーオ

所要時間 時間 60分

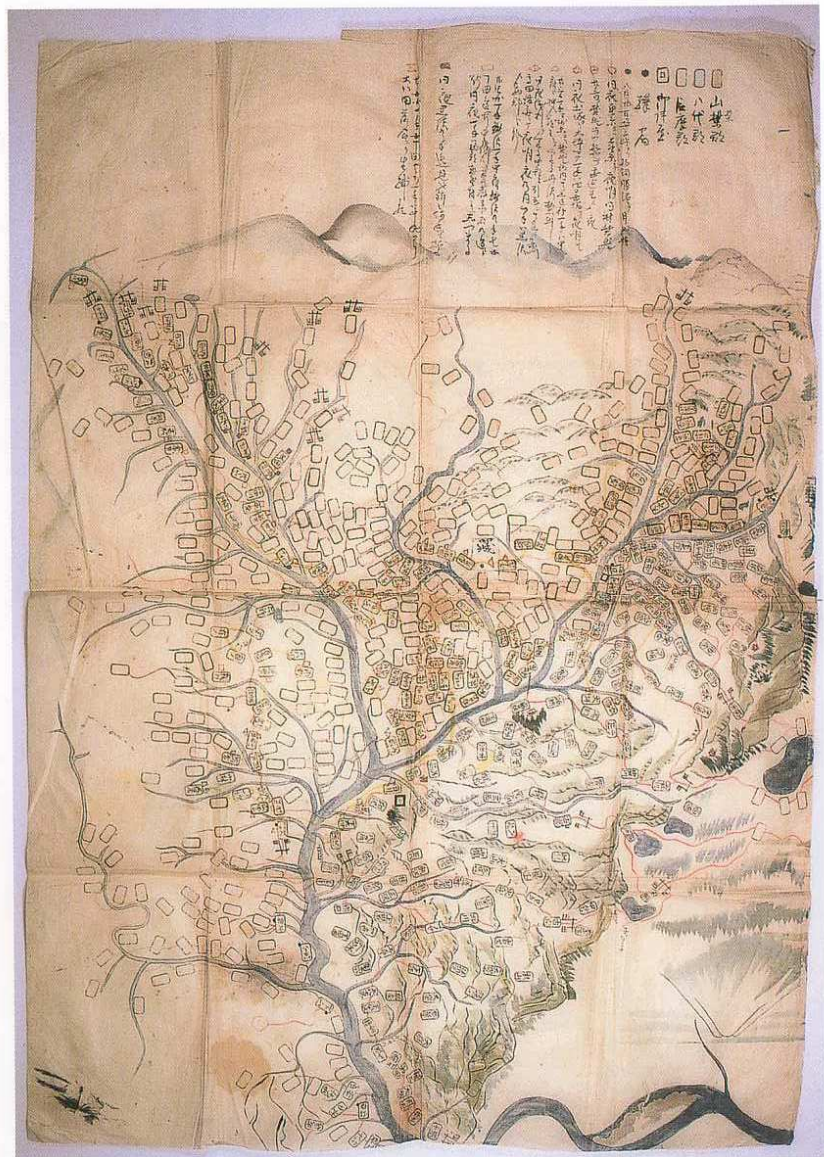
目 標 農村での生産力の増大と人々の団結の高まりを通して、農村のくらしの変化や生活防衛の動きが起こってきたことを、全国的な動向と同時に、山梨県内の動きも捉えることができるようにする。

過程	学習の流れ	提示史料	生徒の活動
<p style="text-align: center;">導 入 (2 0 分)</p>	<p style="text-align: center;">「江戸時代の農業はどの様に進歩したのだろうか。」</p> <p style="text-align: center;">「江戸時代の農民の暮らしはどのように変化してきたのだろうか。」</p>	<p>教科書、資料集該当資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作業の様子図 ・田畑のグラフ ・旅を楽しむ人々 ・一揆のグラフ ・連判状写真 ・「渋染一揆」「大塩平八郎」説明資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・農具の進歩、田畑の面積のグラフなどを読み取ることで農業生産の変化を予想する。 ・農具の用途と工夫をまとめる。 ・諸資料から農民の暮らしの変化を考える。 ・渋染一揆の概略について知る。
	<p style="text-align: center;">「これは、1833年に山梨県で起こった『甲斐国天保騒動』の絵図です。気づいたことを発表しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知っている地名等はあるかな？」 ・「騒動はどのように広がったのだろうか？」 <p style="text-align: center;">「『甲斐国天保騒動』とはどのような騒動だったのでしょうか。」</p> <p>資料1) 概略を示した説明文を読む。</p>	<p style="text-align: center;">身近な地域で起こった一揆(「甲斐国天保騒動」)について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料編13近世6全県上P503「一一四 天保騒動絵図(二)」 ・同口絵 ・同上絵図内に記述のある、打ちこわし行動の経過を示した文(読み下し資料) ・県史通史編4近世2「天保飢饉と人々のくらし」より作成した説明(通史編4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵図の概略を知る(川、地域の概略、説明部分、打ちこわされた家の名前等) ・知っている地名等や気づいたことを発表する。 ・打ちこわし行動を示した文、絵図、打ちこわされた家等を対応させながら騒動の経路を知る。 ・資料を読み、騒動の概略(起こった原因、経過、結末、影響等)をつかむ。

展開	資料 2) 騒動の原因となった飢饉の被害の様子が書かれた資料を読む。	・資料編 1 3 近世 6 全県上 P 1 4 4 「甲州郡内 天保飢饉日記 控帳」抜粋引用 資料	・「天保飢饉」の被害の深刻さを読み取り、騒動との関係を考える。
	学習を振り返り、ノートに記入しよう。		
まとめ (10分)	授業の内容を振り返り、ノートに記録する。 授業の感想を記録する。	板書を参考にする。	・江戸時代中頃の農業の様子、民衆の暮らし、山梨で起こった一揆の様子について振り返る。

「通史編 4」近世 2 は 19 年刊行予定

資料編 1 3 近世 6 全県上
口絵「天保騒動絵図」



天保騒動絵図 (山梨県立図書館所蔵辻家文書)

廿三日中郡浅利迄夜二人

〔二十三日夜には、中郡の浅利（現中央市豊富村浅利）に入った〕

同夜より鳥居ニテ三人生捕

〔同夜、鳥居（現中央市豊富村大鳥居）で三人が生捕りにされた〕

廿四日荊沢ニテあらあわき生捕

〔二十四日には、荊沢（現南アルプス市）でおおよそ和解が成立し、生捕りにされた〕

（根）

同夜より一手曾植被生取夜明いち原ニ集り生捕

〔同夜より、一隊が曾根で生捕りにされ、夜明けにいち原に集まっていた者が生捕りにされた〕

「甲斐国天保騒動」とは？

天保四年（一八三三）は冷夏であった。全国規模の大飢饉、「天保飢饉」の始まりである。

五月二十日から六月中旬にかけ雨が降り続き、六月下旬に入ると玄米の値段が上がりはじめた。一方、穀倉地帯である隣の信州高島藩と高遠藩は、自分たちの暮らしを守るために他地域へ穀物を運ぶことを禁止した。

八月になると、今度は逆に信州から国中地域（甲府盆地とその周辺）に米穀を買いに来る商人が現れはじめた。信州の商人は、甲州の値段より高い値段で米を買ってくれたため、目先の利益に目がくらみ、甲州米を売ってしまうものが多く出るようになった。その結果、米の値段は激しくはね上がる。

甲斐の中でも周囲を山に囲まれた郡内地域（甲州東部と富士北麓の山間地域）は、もともと米がほとんどとれない地域だった。そのため、米を他の地域から買ってくるのが日常であった。そこに、天保の飢饉による米価のひどい値上がりが増えかかった。天保四年以降、郡内地域では、飢え死にする人、伝染病で死ぬ人、いきだおれたまま死ぬ人、育てられずに捨てられる子が、おびただしい数にのぼった。しかし、そんなひどい状況の中でも、悪い米屋や商人達は金儲けのことしか頭になく、穀物を買占め、飢えて困っている人々に救いの手をさしのべようとはしなかった（一部には困窮者を助けた商人もいた）。代官所もこの非常事態に対しなんら有効な解決ができなかった。

天保七年（一八三六）八月十七日夜、地獄のようなひどい状況に耐えかねた谷村（都留）の百姓たちは、ついに米屋を襲い、「打ちこわし」を行った。ききん発生から三年目の夏のことである。これが近世史上全国的にも有名な「甲斐国天保騒動」の幕開けであった。急激に拡大し、一時は一万人以上もの人が参加したこの騒動は、最初は米屋などに米の買い占め禁止と、困った人々を救うための米・金を借りるという要求を実現させるための行動であった。しかし、騒動は拡大する中で次第に「悪党」が仕切る単なる「暴動」に変化し、三百件以上もの打ちこわしを行い、韮崎市、北杜市（旧長坂町）付近で鎮圧されるまで、十日間にわたって甲州全体を縦横無尽に駆けぬけた。

騒動後、五百人を超える人が牢屋に入れられ、首謀者達五人が磔の刑に、九人が死罪（九人全員牢死）、三十七人が島流しなどの処罰を受けた。また、騒動を防げなかった役人達も、その職を辞めさせられるなど、六十人以上がこの事件に関わって処分を受けた。この「甲斐国天保騒動」は、翌天保八年に起きた「大塩の乱」などとともに、その後の日本の政治・社会に大きな影響を与える事件となった。（「通史編」4近世2・「資料編」1近世6をもとに作成）